



昴の今日と明日Ⅱ

No.63 May13, 2014 (編集・発行)昴☆共生社会研究所

各事業所長等の抱負(2)

相談支援に携わって

相談支援センターYeast (イースト) 浅田康裕

平成8年4月に社会福祉法人昴に入職以来、今年で18年目を迎える。ピアハイムでの「住み込み世話人」(←死語?)最初の仕事は、米をとぐことだった。それからずっとグループホームに携わってきた。入居者さんの健康のためにと、時には味噌汁の出汁や味噌にまでこだわったりして、利用者さんの地域での生活が豊かになるように・ご家族が安心できるように常に全力で走ってきたつもりだ。自分の未熟さや至らなさで利用者さん等に不安な思いをさせたり、がまんを強いたこともあり、利用者さんやそのご家族の伴走者として仕事できていないこともあった。でも、利用者さんと共に泣き・笑い関わり合ってきた思いは確かだ。

そんな私が深谷に異動になり2年が過ぎた。自分自身初の異動人事であった。しかもグループホーム関連ではなく、計画相談を担当する相談支援専門員である。

そして2年、相談支援に携わってきて、地域での生活は海より広く・山よりも高いということを改めて実感している。相談支援における自分の武器は「言葉」と「紙(計画)」と「経験」である。その武器を携えて、「利用者さんやその家族・関係者の信頼を得ているか?」と、常に心がけながら全力で深谷の街を走っている。全力で走ることはできない。ホームでの経験が相談支援で私の「武器」となってくれている。深谷まで来てくれた人と、チボリのパンとコーヒーでお・も・て・な・しつつそんなことを話し合いたいです。

ハロークリニック 2014

クリニック事務長 横川寿枝

ハロークリニックは、昨年5月に新棟・リハビリ棟が完成し丸1年、開院から数えて16年目を迎えました。身近な場での医療とリハビリ、人との出会いやふ

れあいを大切に皆様と歩んで参りました。

昨年より院長・副院長の2診体制となり、最大の課題であった待ち時間の問題も、大幅に解消されつつあり、患者様に対してより良い医療の提供が出来る様になりました。そして、一般小児科患者の新規来院者も、予防接種実施方法を工夫強化した事で徐々に増えつつあり、今後、乳幼児期の健診などの実施を通じて、更に地域の診療所として信頼を得ていきたいと思っております。

クリニックスタッフは、医療や相談、事務など総勢30人余りで、患者様に対応させて頂いております。いろいろな職種があり、またいろいろな考えもあり、それらを統括して良い環境や雰囲気づくりをして行くことが、より多くの患者様に選んで頂ける、診療所となっていく事と信じております。まず平成26年度は、スタッフ間で課題を共有する【作戦会議】の始まりです。

「松の実」を地域の資源として

松の実・主任 町田直之

今年度、松の実の主任になりました町田です。よろしくお願いたします。

松の実は今年度スタート時点で定員20名に対して26名の契約者数があり、昨年度の平均利用率も110%を優に超えました。このような現状の中、松の実のこれからを考えると、今、松の実を利用されている方だけがサービスを受けられる事業所ではなく、地域の資源として、さらに多くの方が利用できる事業所を目指していかなくてはならないと感じています。

その為に、他の外部のサービスを利用する事で、その方の生活の質を向上させる事ができるならば、それらを組み合わせて積極的に利用していただく『日中サービスの重複化』と、松の実と正式に契約されていない方でも、松の実の活動に参加していただく『活動のクラブ化』の2点を進めていきたいと思っております。

今年度は数値目標も設定しながら、様々な課題をクリアして推し進めていきたいと思っております。